

第 11 次倉敷市廃棄物減量等推進審議会委員委嘱式

平成 26 年第 1 回倉敷市廃棄物減量等推進審議会議事概要

日 時：平成 26 年 2 月 13 日（木）午後 2 時から午後 4 時

場 所：倉敷市役所 議会棟 3 階 第 2 会議室

出席者：委員 15 名 50 音順

石井（悦）委員、石井（善）委員、石井（つ）委員、
伊藤委員、江口委員、岡林委員、加藤委員、北畠委員、佐藤委員、
武則委員、田邊委員、藤原委員、三野委員、山本委員、吉田委員

倉敷市 11 名

伊東市長

塩尻環境リサイクル局長

リサイクル推進部：桑木部長、黒田次長（兼）一般廃棄物対策課長、
小野副参事

一般廃棄物対策課：外村課長補佐、清水主幹、小野係長、田島係長、
土屋係長、内海主事

報道関係 0 社

傍聴人 0 名

欠席者：委員 2 名

樋口委員、古川委員

【委嘱式】

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 市長あいさつ

当審議会では、扱う廃棄物処理の問題は市民皆様に直接関わる身近で非常に関心の高い事柄でございます。今後とも、新たな基本計画に沿って皆様と力を合わせて、廃棄物の更なる減量や再資源化を推進してまいりたいと考えておりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

【第1回倉敷市廃棄物減量等推進審議会】

1 会長、副会長の選出

委員より事務局案の提案を求められ、事務局より会長を藤原委員、副会長を加藤委員と樋口委員にお願いしたいと提案したところ、全会一致で承認された。

2 倉敷市一般廃棄物処理基本計画の改定について（諮問）

諮問の後、会長・副会長より就任の挨拶をいただいた。

3 委員自己紹介

4 担当部署職員紹介

【議 事】

本日の会議の議事録署名人について、会長より石井悦子委員と石井善三委員の2名を指名された。

5 倉敷市廃棄物減量等推進審議会説明（審議会の位置付け、市と審議会の役割）

事務局より資料4ページに沿って、審議会の位置づけ、市と審議会の役割について説明した。

6 倉敷市一般廃棄物処理基本計画の改定について

事務局より資料5～10ページに沿って、(1)一般廃棄物処理基本計画について、(2)倉敷市一般廃棄物処理基本計画の概要について、(3)計画の進捗報告と評価検証を説明した。

－意見・質疑－

（会 長） 資料のグラフで平成23年度から家庭ごみ、事業ごみが目標値よりオーバーしている原因は何でしょうか。

（事 務 局） 平成23年度は9月に台風12号が上陸したため、被災ごみが発生し、家庭ごみ、事業ごみともに増えてしまいました。

それともう一つ、計画の目標設定の仕方が、策定当初は58の施策を積

極的に実施した結果、当初にごみ量が大幅に減少し、その後緩やかに減少するといった設定になっていたため、最初のごみ量の減少の仕方に対して、実績が伴わなかったというのも原因の1つであろうと思われます。

(会 長) この23年には、ごみは増えているけれども、リサイクル率は下がっています。災害ごみが入ると、リサイクル率が下がるというのには何か理由があるんですか。

(事 務 局) リサイクル率の算出方法は、分母がごみの総排出量、分子が総資源化量です。台風とかで被災ごみが増えると、分母の総排出量は増えますが、分子の総資源化量はそのままです。分母が増えることによってリサイクル率は必然的に低下するということになります。

(会 長) その分、埋め立て処分にまわっているということですか。

(事 務 局) そうです。焼却量が増えることと、埋め立て等による最終処分量が増えるということになります。

(会 長) 分かりました。他に何かご意見はございませんか。

では、私から質問したいと思います。資料6ページの基本理念①で Refuse (リフューズ) を「購入抑制」としています。

店に行ってレジ袋を断ることもリフューズと言いますし、包装紙を簡易包装にしてもらうといった購入とは関係のない、その場でなるべくもらわずに家に持ち帰らないようにするというのもリフューズといえます。この場合、どこに含まれるのでしょうか。

(事 務 局) 会長のおっしゃる通りで、ごみ袋を断るなど、6ページではリフューズを「購入抑制」と書いてありますが、不要な物を家に持って帰らないということがリフューズの意味するところです。この中には、家にレジ袋や包装紙、食べることができないのに余分な食糧を買って帰るといつかはごみとして排出されてしまうといったことを極力抑えるという内容も含まれます。家に持って帰ってしまうと、いつかはごみとして排出されてしまうので、その原因から減らしていこうという意味であり、①のリフューズに該当します。

(会 長) ありがとうございます。今の話では、「購入」の意味を拡大解釈して、購入に伴う色々な包装紙や袋を断るということも含んでいるという説明でした。

(会 長) 他に何かありますか。もしありましたら、この後の事務局の説明の後でも構いませんので宜しくお願いします。

「(4)主な見直し説明」について

事務局より「(4) 主な見直し説明について」、資料 11～15 ページに沿って説明した。

－意見・質疑－

(会 長) 人口が増えるということですが、これはずっと増え続けているという状況でしょうか。また、将来についても人口が増え続けるだけの確かな要因があるのでしょうか。

(事 務 局) 現在の人口は平成 22 年度と比較すると、市全体で約 3,000 人程度増えています。やはり、岡山県は災害が少ないということもあって、関東方面から人口が流入してくる傾向にあります。これは毎月の状況においても同様です。

しかし、今後については、業者と協議しながら、できるだけ正確な人口推計を行いたいと考えています。

(会 長) ありがとうございます。また、予測に関してですが、ごみの質というか、少子高齢化に伴って、ごみの種類も段々変わってきている可能性があります。この計画には反映されるのでしょうか。

(事 務 局) 来年度、この計画を見直すにあたって、ごみの組成分析調査という、家庭から出てくる燃やせるごみは無作為に抽出し、内容を分析する調査を行います。

それに基づいて、どのような施策が有効か、例えば、まだまだ水切りが必要であるといったような分析結果を反映させた計画の見直しを行います。

(会 長) 人口変化に伴うごみ量と質の変化の両方を分析しながら、将来推計を行うということでした。他に何かありますか。

(委 員) 船穂地区では生ごみの堆肥化を始めて 19 年になります。

しかし、堆肥化しても畑があれば、そこに埋め続けなければいけない。埋めるところがなければ、ごみとして出さなければいけない。そのところでいつも行き詰まりを感じます。分別がきちんとできていれば、生ごみの堆肥

化を進めると、ごみ出しは週1回で良いと思います。レシートとかでも紙ごみに分別し、出すものもナイロン類のみとなり、臭いもないからです。

しかし、船穂ではそうでも、他の地域からの生ごみが全て船穂に来るとなるとそれも困るし、堆肥化が可能な地域から整備するとか考えていただけませんか。

(会 長) ありがとうございます。ごみの減量化の対策として、今の話は生ごみのコンポストという話でしたが、具体的に計画の中で、どのようにごみの減量化を進めていくのか。特にどのようにして生ごみのような、水分の多いごみを減らしていくのか。これはごみの焼却にとっても非常に有効な対策だと思いますが、どのように基本計画に盛り込むか検討されていますか。

(事 務 局) 生ごみの減量化対策についての御質問をいただきましたが、生ごみの堆肥化については伊東市長が就任以来、生ごみ処理容器の購入費用の補助金を拡大し、好評をいただいております、また電気式の生ごみ処理器も増えており、資料の8ページに実績を載せておりますが、多くの市民の方に堆肥化に御協力を頂いている状況であります。委員さんのお話にありますように、船穂町の堆肥化事業ですが、現在では約400件弱の世帯の方の御協力を頂きまして、堆肥化を行い、7～800円位で販売できているとかがついています。委員さん提案の各地区でやってはどうかというお話ですが、生ごみの堆肥化自体が事業として成り立つかということと生ごみを取り扱うということで、人口密集地区では難しい部分がありますし、ご協力いただける世帯はなかなかきちんとした生ごみだけの分別が出来るという部分でなかなか実施に踏み切れない状況にあります。生ごみにつきましては、今現在は水切りで出来るだけ水分を減らした形で、ごみとして出していただくようにパンフレット等を通じて水切りの励行をお願いするような啓発をさせていただいているというのが現状です。

(会 長) ありがとうございました。資源化するという活動は、非常に重要ですが、資源化したら今度はそれを引き受けてくれる、例えば農家の方とか、あるいは公的な公園とかいったところに使うとかいったような、作ったものを、今度は上手く受け入れてくれるような、スムーズに流れていくということが大事でありまして、コンポストとかで失敗している自治体というのは堆肥を作って、それがはけないが故に製品の袋がどんどん積みあがっている状態で、

置いておく場所もない、そういったことが実際にありまして、作る一方で実際にどう使っていくかということを同時に考えていかないとうまく成りゆかないという所がございますので、例えば市民農園をもっと広げるとか、あるいは公園とか、中央分離帯の植物の育成に使うとか、使う場所を同時に見つけていかないといけないと私は思っております。

(委 員)

また、ペレットが品薄で、この前も買いに行ったらペレットが少ないということで、とても順調に出荷されているみたいです。

(会 長) そういう例がどんどんできて、こういう情報はどんどん広まってくると非常にいいなと思います。

(委 員)

非常に地域としても誇れることだと思っていますし、今でも県の内外を問わず視察が多いんです。船穂をみて、その後倉敷の美観地区へ行くというのはすごく嬉しく思います。

(会 長) ありがとうございます。これは市がやりなさいと言ってもなかなかできない。

(委 員) 出来るところから取り組んでいただいたら、すごくありがたいかなと思います。

(会 長) 市民レベルでの活動がどんどん広がって、市全体でやりましょうという風になっていくのが自然な姿かなあとと思います。他に何かございますでしょうか。

倉敷市のごみの特徴は事業系のごみが多いということなんですけれども、ごみを減らすためには、事業系の方もしっかりと減らしていく対策を取っていかねばいけないということで、先程もありましたように資源化計画書の提出ですが、事業系の方でも大規模事業所で大量の排出者については計画書の提出を求めたりしていると思いますが、これからの事業系ごみの減量化対策というのは何か具体的に考えているのでしょうか。

(事 務 局) 先程会長からもありましたとおり、資源化計画書を出してもらってそのままでは効果もありませんので、現在は各事業所へ直接出向いて担当者の方にアドバイスをしたり、現状はどうなっているのか聞き取りを行ったりしています。実績としては、前年度63事業所を訪問しました。本年度も継続し

て訪問指導を実施しています。訪問すると、雑がみの分別が出来ていないところもあるので、今後もそういった点を進めていきたいと思っています。

(会 長) ありがとうございます。基本計画の策定にあたり、具体的な事業ごみの減量化対策というものを議論していかなければいけないということです。自由にご提案いただければと思います。委員の中には事業所の方もいらっしゃいますので、是非有料化も含めて御意見をいただいて、実効ある基本計画にしたいと思っています。他に何かございますか。

(委 員) マイバッグ運動のことが書いてありますが、レジ袋の有料化についてですが、イオンさんの方へ持って行くと、レジ袋を持って行くとお金が返ってくるということで、イオンとマルナカと提携したのでその辺は良くなっていると思いますが、ニシナや天満屋もまだですが、段々有料化の方向になっていくのでしょうか。

(会 長) ありがとうございます。レジ袋の有料化活動というのが、他の市でもございますし、倉敷市としては今後どのように考えているのでしょうか。

(事 務 局) レジ袋の有料化については、21年度から県下全域で一斉にスタートしたいということで、岡山県ごみ0社会プロジェクト推進会議というところで検討しております。イオンさんとイトーヨーカドーさんについては、それとは別に事業者として独自に有料化をされたという状況です。倉敷市としても市独自にということではなくて、県下一斉というタイミングで行いたいと考えております。

(会 長) ありがとうございます。他に何かありますか。

10ページに現行のごみ処理体系という項目がありまして、水島清掃工場は延命化の措置を施すと、平成46年まで稼働可能ということですが、水島エコワークスと西部清掃工場は平成36年を目途とし、それ以降の処理施設のあり方を考えなければならないとあります。

こういう施設というのは、計画から工事、運用までかなりの時間がかかるため、予め事前に方向性を考えていかないといけないということですが、今回の一般廃棄物処理基本計画の中で、将来のごみ処理の方針というものは議論すべきなのではないでしょうか。それとも今の段階では必要ないのでしょうか。

(事 務 局) 今回は、ごみの発生量についても見直しますが、ごみ処理施設の36年度以降の方向性につきましては、ごみの減量化によって、中間処理施設を小規

模なものにし、そして建設投資やランニングコスト等を縮減していくことができる、これが分かりやすく、かつ、一番大きなメリットだと考えています。

そのため、この計画では、今後のごみの発生量を十分に勘案し、できるだけ減量化がなされるような施策を行うとともに、ごみ処理施設の最適な規模がどのようなものか、その方向性を今回の計画の中へ盛り込んでいければと考えております。

(会 長) ありがとうございます。ごみの減量化が進めば、施設規模も小さくなって、全体として非常にコンパクトで効率の良いものになる。

しかし、減量化が上手く行かなければ、施設は大きくなり、維持管理に多大な費用がかかるようになる。

人口予測や減量化施策、そして施設整備計画などは全て関連があります。減量化については十分に議論を行い、市民が努力することで焼却炉の規模が小さくなり、そのメリットが、市民に返ってくると考えられるので、減量化を一生懸命やるということを骨子にするのが良いと私は考えます。皆さんも色々な御意見があるかと思いますが、忌憚なく、減量化やごみ処理計画について、意見をいただきたいと思います。

他にありますか。

(委 員) 現状のごみ処理施設で水島エコワークスさんは平成36年度で契約終了とありますが、これは設備的な老朽化も踏まえた上での計画終了なんでしょうか。再契約とかは現状ではないのでしょうか。

(事 務 局) 水島エコワークスはPFI事業により、民設民営という形で設置されました。

倉敷市は株主として資本参加しており、毎年、必要なごみ量の処理を委託するという形で関連を持ってやってきています。水島エコワークスも特殊な炉ですが、延命化は可能であるという返事をいただいています。

しかし、年々、施設にも経年劣化が生じてきているため、ストックマネジメントという考え方により、適宜、適切な時期に修繕を行い、できるだけ施設の延命化を図ろうとする考え方もあります。

今後については、新炉の建設や、水島エコワークスの契約延長なども含めて、色々な角度から検討していく必要があろうかと考えております。

(委 員) ありがとうございます。

7 その他

(会 長) ありがとうございました。他にございますか。

では、事務局の方から今後の審議会の予定について、説明をお願いします。

(係 長) 次回の審議会は8月以降に第2回審議会を開催させていただく予定です。

8 閉 会

(会 長) 以上をもちまして、平成26年第1回倉敷市廃棄物減量等推進審議会を終了いたします。

では、事務局へマイクをお返しします。

(事 務 局) ありがとうございました。それでは塩尻局長よりあいさつをお願いします。

(事 務 局) 長時間にわたり、ご審議いただきありがとうございました。中々、今日の資料では分かりにくい部分が多々あったと思います。次回は8月ということでございますが、私共も新年度予算で基礎データを整理する期間を頂きまして、次の8月の審議会では少し内容に踏み込んだ議論がいただけるものと思っております。資料が出来次第、できるだけ早くお渡ししたいと考えております。

今後ともご支援、ご協力の程をお願い申し上げて閉会のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。